

学校教育目標	「人やものに豊かにかかわり、ともに未来を創る子」 ○互いを尊重しながら伝え合い、学びをつなげて物事を深く考える子どもを育てます。(知) ○自分を見つめ自分のよさに気づき、他者を思いやり、共によりよく生きる子どもを育てます。(徳) ○自他の生命と体を大切にし、自ら健やかな体をつくる子どもを育てます。(体) ○自分らしい夢や目標をもち、地域や社会のために自分ができることを考え行動し続ける子どもを育てます。(公) ○自他の違いを受け止めながらコミュニケーションを図り、共に分かり合おうとする子どもを育てます。(開)				
	創立 57 周年 児童生徒数: 731 人	学校長 犬塚 真	副校長 中西 建介	2 学期制	一般学級: 21 個別支援学級: 5
学校概要	主な関係校: 汐見台中学校・森中学校・浜小学校・山王台小学校・屏風浦小学校・森東小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	汐見台中・森中学校 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<探求心・問題解決力>	汐見台中学校 森中学校 浜小学校 山王台小学校 屏風浦小学校 森東小学校	自他の心を大切にし、主体的に考え行動する森・汐見台の子どもたち  「コミュニケーション能力の育成」をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科領域においてテーマを意識した授業を展開する。小中合同授業研究会でお互いの授業を見合い、協議会でその手立てについてやコミュニケーション能力の育成を教育活動の中心に据えて各校が教育活動を展開してきたことが子どもの具体的な姿としてどのように表れているのかを話し合うことで教育活動を検証していく。

中期取組目標	○ひと、もの、まちのつながりを広げながら、子どもたちが探求心をもって学び、問題解決力を高められる学校を目指します。 ・子どもたちが学び合いながら自分の考えを深められる授業づくりを推進し、目的意識をもって学び続ける力を育てます。(知) ・深く多面的な児童理解と一貫した児童指導をチームで進め、自己有用感と規範意識を育てます。(徳) ・安全に関する指導と児童の運動量の確保を進め、健康な生活を実践する態度を育てます。(体) ・地域に目を向けた学習や様々な交流活動及び、福祉教育を通して社会に参画する姿勢と共生社会を形成する意識を育てます。(公・開) ・職員一人ひとりが自身のキャリアステージを自覚し、人材育成がチームの中で連鎖する有機的な組織づくりを推進します。(組織運営・人材育成)
--------	---

重点取組分野	具体的取組
<b>知</b> 授業改善	①問題の解決に向け、見通しをもち筋道立てて探求していく力を高められるようにする。友達と伝え合う中で、自らの考えを広げていく力を高められるようにする。②めあての確認や課題の把握、振り返りなど、思考の流れが掴みやすい授業展開や板書の工夫を行っていく。話し合う活動などで、状況に応じて話型を活用したり、主体的に情報を収集・整理・分析し課題の解決に繋げたりする子どもの育成をめざす。
担当 学習指導・評価部会	
<b>徳</b> 人権教育	①自分らしさについて考え自分の良さを発揮しようとする心や、自他の違いを認め共に気持ちよく過ごそうとする心を育てる。②異学年交流や個別支援級理解を進め、自他の違いに気づき、相手を思いやる態度を育てる。規範意識を大切にすることを誰もが安心して過ごせる学校風土づくりにつなげる。日々の学習の中で人権教育に取り組むことで、自然な人権意識の高まりを目指す。
担当 児童指導・人権部会	
<b>体</b> 体力向上	①さまざまな活動を通して、体を動かす楽しさやよさを感じ、日常的に運動に取り組もうとする姿勢を身に付けていく。②新体力テストの結果や探求運動タイムでの取り組み状況について学校保健委員会で話し合い、個人や学校での課題の解決に向けて、さまざまな運動活動に取り組む。また、日常的な活動にしていけるために活動カードを活用していく。
担当 健康・安全部会	
<b>公開</b> 地域連携	①探求心をもって考え方の異なる他者とかかわったり、地域に関する学習をしたりする中で、「主体的にかかわろうとする姿勢」「良さを発見する力」「多様性を尊重しようとする態度」「問いを見いだす力」の育成を行う。②福祉教育や生活科・社会科・総合的な学習の時間等を核として、自ら問いを見いだして地域の人、もの、ことと関わる中で、地域を大切にしようとする態度を養う。
担当 地域連携部会	
<b>いじめへの対応</b>	いじめの未然防止、早期発見・早期解決の三段階において、いじめ防止対策委員会が中核となり情報の収集や記録、対応に関する役割分担をし、調査を行う判断や対応を行う。また、この委員会は児童指導部会と連携し、いじめ未然防止のための情報交換、子どもの実態把握に努める。5月に実施する記名式のいじめアンケートを未然防止、早期発見につなげていく。
担当 児童指導・人権部会	
<b>人材育成・組織運営(働き方)</b>	一人ひとりの専門性が発揮できる場作り、経験年数の少ない職員も様々な役割に自覚と責任、実行できる校内組織体制の整備、協力体制の構築を図るために、管理職の方針の基、主幹教諭や関係部署の主任が中心となってリーダーシップを発揮し、人材育成を行いながら活気ある組織運営を行う。
担当 主幹教諭・教務	
<b>地域学校協働活動</b>	学校教育目標の実現に向けた具体的取組を共有して学校・家庭・地域の意思疎通を図り、新校舎移転後の学校運営に関する保護者や地域の意見等を反映させながら、よりよい学校づくりを推進する。学校地域コーディネーターを中心に地域人材を活用したボランティア活動を継続するとともに、新校舎移転後には新たな学校教育ボランティアが加わり読書活動の更なる充実を図りながら児童の豊かな心を育成する。
担当 主幹教諭	
担当	b8
担当	b9
担当	b10
担当	

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
<p>「人やものに豊かにかかわり、ともに未来を創る子」</p> <p>○互いを尊重しながら伝え合い、学びをつなげて物事を深く考える子どもを育てます。(知)</p> <p>○自分を見つめ自分のよさに気づき、他者を思いやり、共によりよき生きる子どもを育てます。(徳)</p> <p>○自他の生命と体を大切に、自ら健やかな体をつくる子どもを育てます。(体)</p> <p>○自分らしい夢や目標をもち、地域や社会のために自分ができるところを考え行動し続ける子どもを育てます。(公)</p> <p>○自他の違いを受け止めながらコミュニケーションを図り、共に分かり合おうとする子どもを育てます。(開)</p>	

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	
<p>&lt;探求心・問題解決力&gt;</p>	<p>具体化した資質・能力</p> <p>○伝え合うことで考えを発展させる力</p> <p>○協働的に解決策を見いだし実行する能力</p> <p>○試行錯誤する能力</p> <p>○問題を発見する力</p>

中期取組目標	
<p>○ひと、もの、まちのつながりを広げながら、子どもたちが探求心をもって学び、問題解決力を高められる学校を目指します。</p> <p>・子どもたちが学び合いながら自分の考えを深められる授業づくりを推進し、目的意識をもって学び続ける力を育てます。(知)</p> <p>・深く多面的な児童理解と一貫した児童指導をチームで進め、自己有用感と規範意識を育てます。(徳)</p> <p>・安全に関する指導と児童の運動量の確保を進め、健康な生活を実践する態度を育てます。(体)</p> <p>・地域に目を向けた学習や様々な交流活動及び、福祉教育を通して社会に参画する姿勢と共生社会を形成する意識を育てます。(公・開)</p> <p>・職員一人ひとりが自身のキャリアステージを自覚し、人材育成がチームの中で連鎖する有機的な組織づくりを推進します。(組織運営・人材育成)</p>	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
<p>授業改善</p>	<p>①問題の解決に向け、見通しをもち筋道立てて探求していく力を高められるようにする。友達と伝え合う中で、自らの考えを広げていく力を高められるようにする。②めあての確認や課題の把握、振り返りなど、思考の流れが掴みやすい授業展開や板書の工夫を行っている。話し合う活動などで、状況に応じて話型を活用したり、主体的に情報を収集・整理・分析し課題の解決に繋げたりする子どもの育成をめざす。</p>
担当	学習指導・評価部会

学力向上に関わる本校の状況	
<p>(1)学力に関わる児童の実態</p> <p>○自分の思いや考えを自信をもって発表できる児童が限られている。</p> <p>・語彙が少なく、自分の考えや思いの表現の幅が狭い。</p> <p>・自分の考え方や計算の仕方を説明する力を身に付けていきたい。</p> <p>・予想をもとにして調べることや調べ方の見通しを立てたり、問題の解決につながる資料を集め、読み取ったりすることには課題が見られる。</p> <p>・考えたことを文章にしたり、相手に自分の意図が伝わるように表現したりする力に課題を感じる。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況</p> <p>・自分の考えを自信をもって伝えられるように、話型、話し方、聞き方を指導している。</p> <p>・語彙を増やせるように、言葉集めや言葉遊びを学習の中で取り組んでいる。</p> <p>・自分がどのように考えたのか「見える化」して表現できるように指導している。</p> <p>・自分の考えを説明したり、友達がどのように考えたか理解したりする時間を設定している。</p> <p>・調べて分かったことを根拠を示しながら説明したり、学習問題に対する自分の考えを表現したりする機会を設け、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の過程を重視した学習展開を行っている。</p> <p>・ペアやグループの活動を通して伝え合う活動の充実を図っている。</p> <p>・問題解決の過程や結果について、どう考えたかを図や数、式を結びつけながら友だちと説明し合うことで自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする楽しさを味わえるようにしている。</p>	
今年度の目標	
見通しをもって筋道立てて探求していく力を高める	
目標を実現するための具体的行動プラン	
<p>上半期</p>	<p>○学年職員での教材研究</p> <p>・各教員が、身に付けさせたい力を明確にし、見通しをもって授業を展開することができるよう、学年研究会で学年の職員が合同で教材研究を行い、授業の改善につなげていく。その際、横浜市学力状況調査の分析結果も考慮する。教科分担制により、よりきめ細かく教材研究を行えるようにする。</p> <p>○板書の工夫</p> <p>・めあての確認や課題の把握、振り返りなど、児童の思考の流れが明確になる板書を行うよう全校で共通理解をはかる。</p> <p>○課題に沿った振り返り</p> <p>・児童が思考の流れに沿って振り返りができるよう、課題に沿った振り返りを行えるようにする。また、振り返りの中で、児童が自身に身についた力を自覚し、「次は○○な力を伸ばしたい。」など、自らの課題を生み出していけるようにする。</p>
<p>下半期</p>	<p>○板書の工夫</p> <p>・児童の思考の流れが明確になるよう、めあての確認や課題の把握、振り返りなど、全校で一定の統一をはかった板書を発達段階に合わせて行っていくようにする。</p> <p>○課題に沿った振り返り</p> <p>・児童が思考の流れに沿って振り返りができるよう、課題に沿った振り返りを行えるようにする。また、振り返りの中で、児童が自身に身についた力を自覚し、「次は○○な力を伸ばしたい。」などの思いにつなげていけるようにする。</p> <p>○ICT機器の効果的な活用</p> <p>・友達と伝え合う中で、自らの考えを広げていく力を高められるよう、話し合う活動などで、状況に応じて話型を活用したり、主体的に情報を収集・整理・分析し課題の解決に繋げたりできるよう指導・支援していく。また、自分の考えの根拠を伝える際、タブレット端末等を効果的に活用できるよう手本を示したり、支援をしたりする。</p>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
<p>人権教育</p>	<p>①自分らしさについて考え自分の良さを発揮しようとする心や、自他の違いを認め共に気持ちよく過ごそうとする心を育てる。②異学年交流や個別支援級理解を進め、自他の違いに気づき、相手を思いやる態度を育てる。規範意識を大切にすることを誰もが安心して過ごせる学校風土づくりにつなげる。日々の学習の中で人権教育に取り組むことで、自然な人権意識の高まりを目指す。</p>
担当	児童指導・人権部会

豊かな心に関わる本校の状況	
<p>(1) 児童の実態</p> <p>・児童アンケートによると、約9割の児童が「学校は、自分が安心して過ごすことができる場になっている」と回答しているが、1割の児童は不安を抱えている。学校生活の中で児童一人ひとりが友達に認められたり、受け入れられたりしている様子が見られるもの、友達同士のトラブルや、言葉で相手を傷つけてしまう様子も見られる。</p> <p>・人の思いを汲み取ったり、想像したりすることで他者への理解を深める力に関して課題が残る。特に個別支援級在籍の児童に対する理解が足りないと感じられる言動がある。</p> <p>(2)これまでの取り組み内容</p> <p>・人権週間では、人権意識の向上のために、各クラスで話し合い、多様性を認め合うための目標を立てた。目標を意識しながら学校生活を送り、一人ひとりが自分自身をふりかえる機会をもつことで、よりよい学級、よりよい学校づくりを目指してきた。</p> <p>・いじめアンケートやYPアセスメントを通して児童の心の声に耳を傾け、いじめの早期発見や児童の困り感に対する理解につなげてきた。それらを学年で共有し、解決策を話し合うことにより学年全体で児童を見守ることのできる体制を整えてきた。</p> <p>・児童の様子を話し合う機会を多くもち、日常的に懸念事項に関しては一人ひとりに話を聴くようにしていることや丁寧な児童対応を心がけてきた。</p> <p>・委員会活動を通して自ら進んで挨拶ができる子を目指して学校全体で取り組んできた。</p> <p>・児童だけでなく、職員の人権意識を高めるために、校内研修を行った。コーチングによる優位感覚について学び、児童理解に役立てたり、日々学級の中で行える人権教育について共有した。</p>	
今年度の目標	
<p>・規範意識を育みながら人や自分の良さに気づき、人と関わることを楽しむことのできる素地をつくる。・物事を多角的に捉え、周囲の人の多様性を尊重する態度を育む。</p>	
目標を実現するための具体的行動プラン	
<p>上半期</p>	<p>○学年研</p> <p>・昨年度作成した人権マーク入りの年間計画を確認し、日々の授業の中で行える人権教育を実践していく。毎年度末に確認し毎年より良いものにしていく。</p> <p>○校内研修</p> <p>・日々の学校生活の中で職員の人権意識を高めるため、職員室の中で職員がお互いに自尊感情や自己有用感を感じられる取り組みを行う。</p> <p>・毎月の人権だよりの中で児童の人権意識を高めるための各学級の取り組みを紹介し、実践とつなげていく。</p> <p>・センター機能を利用した講師を招き、職員自身が他者理解を深められるよう、児童理解について学ぶ。(6月)</p> <p>○アンケートなど</p> <p>・YPアセスメントを実施して支援検討会を開き、児童理解を深めると共に、学級の課題の改善や子ども個人の課題改善に向けた具体的な指導の手立てを話し合い、教師集団が「だれもが安心して豊かに」過ごすことのできる学級づくりに向けて協働できるようにする。</p> <p>・「汐見台いじめ防止基本方針」に基づく、安心・安全な学級・学校風土の醸成を図る。</p>
<p>下半期</p>	<p>○個別支援級理解</p> <p>・全校児童に対して、個別支援級がどのような場所なのかを分かりやすく説明する機会を設ける。</p> <p>○人権週間</p> <p>・人権週間で、各学級の人権目標について話し合い、児童が自分たちの良いところや伸ばしたいところを人権の視点から考える機会をもつ。それぞれの目標を各クラスで紹介しあい、お互いの人権に対する意識を高める。・朝会で人権について考える機会をもつ。</p> <p>○アンケートなど</p> <p>・YPアセスメントを実施して支援検討会を開き、一回目のアセスメントからの変化を読み取り、一回目の結果から講じた手立てに対する成果と課題をまとめ、二回目の結果の分析とともに学級や児童の課題を読み取る。・児童アンケート、保護者アンケートを通して実態を把握し、学校全体の取り組みの成果と課題を分析し、来年度へ向けて対策を講じる。</p>

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
<p>体力向上</p>	<p>①さまざまな活動を通して、体を動かす楽しさやよさを感じ、日常的に運動に取り組もうとする姿勢を身に付けていく。②新体力テストの結果や探求運動タイムでの取り組み状況について学校保健委員会で話し合い、個人や学校での課題の解決に向けて、さまざまな運動活動に取り組む。また、日常的な活動にしていくために活動カードを活用していく。</p>
担当	健康・安全部会

健やかな体に関わる本校の状況	
<p>(1) 健やかな体に関わる本校の状況</p> <p>○体育・健康に関する実態</p> <p>・友達とともに運動や遊びを行う経験が少ない児童が多く見られる。</p> <p>・運動を好む児童と好まない児童の二極化が見られる。</p> <p>(友達と運動したり遊んだりする時間や場所の確保が難しいため。また友達と一緒に活動することによって充実感を味わう機会が少ないため。)</p> <p>・校舎建替えのため、運動や遊びを行う場所が減っている。</p> <p>・令和4年度の新体力テストの結果から本校児童の体力は、多くの実技で横浜市の平均記録よりも下回っている。</p> <p>・特に20Mシャトルランでは横浜市平均よりも下回っている。</p> <p>・体育科は、上校庭・なわとび広場・つどの場・上大岡小学校(5・6年)を使い、場所の大きさに課題はあるが、運動場所を確保している。</p> <p>(2)これまでの学校の取り組み内容</p> <p>・体育科は、上校庭・なわとび広場・つどの場・上大岡小学校(5・6年)を使い、場所の大きさに課題はあるが、運動場所を確保している。</p> <p>・毎週木曜日の特活タイムでは、動画資料を活用しながら室内でストレッチ・体操、上校庭でなわとびやランニングをして運動機会を設定している。</p> <p>・体育科学習では、活動内容によってはタブレット端末を活用しながら動きの変容を実感しながら取り組んだ。また、タブレット端末に学習カードを作り、めあてと振り返りを大切にしながら指導している。</p>	
今年度の目標	
場所・材・活動を工夫して運動機会を設定し、探究的に活動を継続していくことで、児童の心身の健康と保持増進に励む。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
<p>上半期</p>	<p>○体育科学習</p> <p>・体育科のカリキュラムを確認し、9月以降に使用できる体育館を視野に入れつつ、本校の体育科を推進していくための編成を図っていく。運動機会を確保していくために、時間・場所・材を工夫していく。上校庭やなわとび広場など限られた場所でも運動ができるように有効活用していく。</p> <p>○探求運動タイム</p> <p>・週一度の15分間を探求運動タイムとして設定し、前年度の体力テストの結果から数値が汐見台小学校として下回っている領域の課題改善に向けて探究的に取り組む機会としていく。児童が探究的に運動に親しんでいくために、動画やアプリを活用して活動していく。</p> <p>○学校保健委員会</p> <p>・学校保健委員会では「のびのびにここにこげんきなからだ～みんなでからだを動かそう～」をテーマに児童の運動課題の改善にストレッチ・運動の日常化を図っていくための共通認識の時間として設定する。探求運動タイムと運動できるように、子どもたちにとって探求的な活動となるように話し合いをもち、運動習慣の定着を図る。</p> <p>・運動会などの体育的行事を通じて、目的に向かって粘り強く取り組もうとする姿勢を育んでいく。</p>
<p>下半期</p>	<p>○探求運動タイム</p> <p>・各クラスや学年の課題を解決していくための運動を上校庭や体育館、教室を使って実施し、自己の変容を実感しながら活動に取り組む。</p> <p>○学校保健委員会</p> <p>・前期に学校保健委員会で提案された「のびのびにここにこげんきなからだ～みんなでからだを動かそう～」をテーマをもとに、ストレッチ・運動の日常化を図っていくための共通認識の時間として継続していく。また、各クラスでの取り組みを報告し合うことで、各クラスの探求運動タイムに生かしていく。</p> <p>○カードの活用</p> <p>・体育科学習に取り組む中で、鉄棒カードやなわとびカードなどを提示することで、子ども達が日常的に運動に意欲的に取り組んだり、ふりかえりながら課題に取り組んだりすることができるようにしていく。</p>